



# さえずり

新潟県リコーダー教育研究会 会長 小池 純夫  
(南魚沼市立塩沢小学校 教頭)

## 仲間意識を大切に

副会長 嶋見 靖之

佐渡地区リコーダー教育研究会（佐渡リコ研）第2代会長で、平成元年に行われた全日本リコーダー教育研究会全国大会（佐渡大会）の実行委員長をお勤めになった仲道清一郎先生が1月2日に急逝されました。

仲道先生は、佐渡地区のリコーダー教育の発展に寄与している佐渡リコ研の発起人でした。発足は、昭和61年2月のことです。以来、佐渡リコ研の発展に寄与されました。佐渡のリコーダー教育の発展が、同時に新潟県全体のリコーダー教育の発展につながっていることを考えると、先生の功績は多大です。

平成4年1月、仲道先生ご退職時の講演会での話です。

仲道先生の元々の専門は、国語・ソフトテニスと全く音楽とは違う分野だったそうです。先生が音楽教育にかかわることになったのは、昭和30年前後、勤務3校目で突然音楽主任を命ぜられたときのことです。ある懇親会に出席した際に、先輩の先生方からの強引な？勧誘を受けたのが音楽部に入るきっかけでした。入った後は、島内の音楽専門の先生方が無償で指導法や音楽理論などを教えてくださったそうです。

当時の佐渡の音楽部は小学校の先生と中学校の先生が一緒になって、夏休みに2泊3日の合宿研修を行っていました。（現在は宿泊はなくなりましたが研修会は続いています。）「合宿で大事なものは、心の結びつき。仲間意識をつくること。」と仲道先生はおっしゃっていました。器楽合奏で、なかなかできない参加者には楽譜をその場で書き換えたり、指揮者が合図を送ったりできるようにする配慮を大切にされたそうです。仲間を大切にすることは佐渡の音楽部、そして佐渡リコ研の原点になっています。

この心は、県リコ研の活動の原点にあるものに通じるように感じます。会員あつての、仲間あつての県リコ研の活動です。そして、仲間を大切にすることから学ぶことは多いと思います。仲間意識を忘れないようにしたいものです。

### 【編集】

佐渡リコーダー教育研究会は、この度、創立25周年記念誌を発刊されました。会の歴史・コンテスト出場の数々の足跡・関係者の思いが綴られた立派な記念誌ができあがりました。編集に当たられた嶋見先生から、節目に当たり当会にアドバイスをいただきました。



## リコーダーコンテストに参加して

魚沼市立堀之内小学校 吉村 智宏

堀之内小学校リコーダー部は、4年生から6年生まで18名が在籍し、火曜日と木曜日に課外活動をしています。今年度は、新入部員が全体の半分以上を占めているため、基礎的な奏法が定着するように、簡単な小品にたくさん取り組んできました。簡単な小品とはいっても、楽曲の構造やしかけ、奏法、純正律を基盤としたハーモニーの感覚を養えるよう、気を付けて取り組んでいます。



このリコーダー部で特に大切にしていることは、「あいさつ」「返事」「感謝の心」です。一見リコーダーや音楽とは離れ、道徳的な印象がありますが、ここの所をしっかりさせないと、仲間と音楽を作り上げていくことや、相手意識をもった音楽を奏することはできません。時に、演奏や表情から、子どもたちのトラブルや不安な気持ちを感じることがありますが、そんな時は、話し合ったり、スキンシップを用いた簡単なゲームをしたりと、よい環境での課外活動を心がけています。子どもたちには「気持ちは音に出る」と繰り返し伝えてきました。

このリコーダーコンテストへの参加は、それらの積み重ねの上にあったと考えています。当日は、多くの方々に支えられていることに感謝をし、共に努力をしてきた仲間たちを信じて演奏することができたように思います。それがあったからこそ、演奏後の子どもたちの感動の涙や笑顔があったのだと感じています。

コンテストでは有り難いことに金賞を頂き、全日本リコーダーコンテストに出場させていただくことになりました。これからも、基礎・基本を忘れず、感謝の心をもって音楽に向き合っていければと思います。応援よろしくお願いたします。



## リコーダーコンテストに参加して

十日町市立東小学校 南雲 加奈子

「2013年はどんな年だった？」と聞かれたら、「頭の半分はリコーダーの1年でした」と答えると思います。正直言いますと、それくらいリコーダー部の指導に悩まされていました。(笑) 4月に教員となり、初めてクラスの子どもの前に立ち、授業や学級事務、初任研・・・とにかく目が回りそうでした。しかし、リコーダー部担当になってからは、目を回している暇もないくらい一杯一杯の毎日でした。初めて見る木のリコーダー・・・数々の賞をとった写真・・・担任している3年生とは反応が全く違う5年生の子どもたち・・・とりあえず譜読みを始めました。「ここどういうリズム？」子どもに聞かれて、「う～ん、難しいね～。ちょっと一緒に考えよう。」と私。「え、先生分からないの？」と子ども。初めてのリコーダーコンテストに向けて、子どもたちと同じラインから始まりました。そして、根津江美子先生から基本的な音の出し方や指導法を教えていただいたり、金子健治先生から表現の仕方を教えていただいたりしながら、子どもと一緒によい演奏を模索しました。同じリコーダー部の先生は、部活の時間だけでなく、朝や昼休みも子どもたちの練習を見てくださいました。たくさんの方々に支えられてコンテストの日を向かえることができました。コンテスト本番の演奏が終わった直後、子どもが「先生！楽しかった！！」と鼻の穴をふくらませながら目をキラキラさせて言ってきたとき、やってよかったと感じました。今年も子どもたちとリコーダーを楽しみたいと思います。



【編集】 子どもと一体になって指揮をする県コンテスト当日の2人の姿を思い出します。注目の2人です。活躍を期待しています。